



2024 年 06 月 12 日 担当 アノジ

原油が 5 日続伸、EIA が需要見通しを上方修正

12 日朝方の国内商品先物市場で、原油は 5 日続伸して取引を始めた。取引量が多い 11 月物は 1 キロリットル 7 万 7000 円と前日の清算値に比べ 450 円高い水準で寄り付いた。米エネルギー情報局（EIA）が 11 日発表した短期エネルギー見通しで、2024 年の世界の石油消費量について中国やインドがけん引するとして見通しを引き上げ、国内原油先物に買いが入った。

ニューヨーク原油先物相場は 6 月上旬から上昇基調にある。加えて、市場では「米国でガソリン需要が高まる時期に入るということもあり、需要面での材料に反応しやすくなっている」との指摘もあり、国内原油先物の買いにつながっている。

金は続伸している。中心限月の 25 年 4 月物は 1 グラム 1 万 1717 円と前日の清算値を 57 円上回る水準で取引を始めた。日本時間 12 日早朝の取引でニューヨーク金先物相場が 11 日の清算値から上昇していることが、国内金先物で意識されている。

白金は 3 日続落している。中心限月の 25 年 4 月物は 1 グラム 4852 円と前日の清算値を 7 円下回る水準で寄り付いた。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	4/30～5/6	86.49	▲ 3.19	158.00	1.75	85.95	▲ 2.18
	5/7～5/13	84.54	▲ 1.95	156.28	▲ 1.72	83.09	▲ 2.86
	5/14～5/20	84.51	▲ 0.03	156.66	0.38	83.27	0.18
	5/21～5/27	83.54	▲ 0.97	157.75	1.09	82.88	▲ 0.39
	5/28～6/3	83.65	0.11	158.18	0.43	83.22	0.34
	6/4～6/10	79.38	▲ 4.27	157.07	▲ 1.11	78.42	▲ 4.80
水曜日～ 火曜日	5/1～5/7	85.62	▲ 4.27	157.07	0.31	84.58	▲ 4.04
	5/8～5/14	84.53	▲ 1.09	156.73	▲ 0.34	83.32	▲ 1.26
	5/15～5/21	84.55	0.02	156.69	▲ 0.04	83.32	0.00
	5/22～5/28	83.32	▲ 1.23	157.84	1.15	82.71	▲ 0.61
	5/29～6/4	83.01	▲ 0.31	158.08	0.24	82.53	▲ 0.18
	6/5～6/11	79.93	▲ 3.08	157.25	▲ 0.83	79.05	▲ 3.48

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート



企業物価指数、5月 2.4%上昇 4カ月連続で伸び率拡大



日銀が 12 日発表した 5 月の企業物価指数（速報値、2020 年平均=100）は 122.2 と、前年同月比で 2.4% 上昇した。4 月（1.1% 上昇）から伸び率が 1.3 ポイント拡大した。

4 カ月連続で伸び率が拡大し、23 年 8 月以来の高い伸びとなった。再生可能エネルギー普及のため国が電気代に上乗せしている賦課金や銅の価格上昇が押し上げ圧力となった。

企業物価指数は企業間で取引するモノの価格動向を示す。サービス価格の動向を示す企業向けサービス価格指数とともに今後の消費者物価指数（CPI）に影響を与える。5 月の上昇率は民間予測の中央値（2.0% 上昇）より 0.4 ポイント高かった。

内訳をみると、電力・都市ガス・水道は燃料安を背景に前年同月比で 7.4% 下落し、4 月（19.6% 下落）からマイナス幅が大きく縮小した。

24年度からの再生エネ賦課金の値上がりは、指数全体で前年同月比0.7ポイントの押し上げ要因となった。銅を含む非鉄金属は20.7%上昇し、4月（11.8%上昇）から加速した。

日経新聞



2024 年 06 月 12 日 担当 アノジ

タイ国営石油、産業向けバイオ油生産へ SCG と提携



バンチャークなどが開発し、商業生産するバイオ絶縁油

タイ国営石油精製大手のバンチャークは産業機器で使うバイオ製品の商業生産を始める。同化学大手サイアム・セメント・グループ（SCG）の化学子会社などと提携し、産業用変圧器向けに供給する計画だ。二酸化炭素（CO2）排出の少ない製品の開発を急ぐ。

バンチャーク傘下のエタノールメーカーBBGIが発表した。SCGの化学子会社と変圧器メーカーなどと連携して開発したのが「絶縁油」と呼ばれる産業向け製品だ。主に変圧器の内部での電気を絶縁したり、冷却したりするために使われる。パーム油をもとに製造したため従来の絶縁油に比べCO2排出量が少ない。

すでに国際基準を満たしたという。国内のパーム油由来のため、海外輸入品への依存度を減らせ、国産化できるメリットがある。

すでに実証生産を開始し、タイ東部ラヨンで複数顧客への供給を実現した。今後、商業生産に向けて準備を進める。具体的な商業生産開始時期は明らかにしなかった。

バンチャークはタイ国営企業で石油精製や給油所の運営などを手掛ける。再生航空燃料（SAF）など脱炭素製品の生産を急いでいる。

日経新聞



2024 年 06 月 12 日 担当 アノジ

ガソリン、軽油軟化 卸業者補助金大幅減予想で

陸上スポット

実質的には6月第2週となる当週前半時点の陸上スポット価格（首都圏・製油所渡し）は、前週前半とくらべてガソリンと軽油が軟化している。次回の元売仕切り改定で激変緩和事業の補助金が大幅減額になる予想で、減額前に一部の卸業者が販売意欲を強めたとみられる。

商社系、広域特約店によるとガソリン中心値は134円50銭～135円60銭で前週前半比横ばいから60銭安となった。6日改定分の大手元売の実質仕切価格は据置きだったが、一部で販売攻勢が強まった。中心値より30銭程度下値の売り込みもあるという。

広域特約店幹部は「原油価格の下落を受けて、次回の仕切り改定で補助金が大幅に下がるので、その前に6月分の販売を進めておこうとする動きが表れた」と指摘する。阪神地区は引き続き輸入玉の影響で下値が一段安をつけており、134円前後が聞かれる。



タイヤ周辺原料値上げ相次ぐ

タイヤ周辺原料値上げ相次ぐ

タイヤ周辺原料で値上げの打ち出しが相次いでいる。炭酸カルシウム（炭カル）やカーボンブラック（CB）では先ごろ、物流コスト増を背景として「メーカー各社が1キログラムあたり3円以上の値上げ交渉に入った（市場関係者）」という。また、国内価格でブローミューラ形式を採用している合成ゴムも、これとは別に追加値上げをメーカーが打ち出している。だが、品目によっては混載便の使用の可否や、顧客サイドの調達管理システムの混乱も予測され、一筋縄ではいかない雰囲気も漂う。価格交渉の難航と長期化を予想する声も上がる。

物流コスト増 交渉長期化も

炭カルやCBの値上げは、いわゆる「2024年問題」による物流コストの上昇を反映している。炭カルの1キログラムあたり3円以上となる値上げ幅は、10ト車で輸送を想定しており、CBも同様だ。だが、物流コストを考慮した価格改定では、値上げ幅はそれ以上に大きくなるが見込まれる。なかでもCBは、黒色粉末や黒色液状品という特性上、混載便を利用しにくい。納入後の復路便としての活用にも難があり、物流企業による輸送便の有効活用にも支障が出やうという。だが、ユーザー

サイドでは、調達管理を行うシステム上の問題もあり、受け入れ場所ごとの価格交渉に難色を示すケースも多いという。初春に打ち出したCBの価格改定は、まだ決着しておらず時間を要しそうだ（市場関係者）との見方が強い。また合成ゴムも値上げが進んでいる。8～10月の国内価格も一段高が確認されるなか、これとは別に大手合成ゴムメーカーは、1キログラムあたり2ケタの追加値上げをアナウンスしている。

ゴム（BR）とスチレン・ブタジエンゴム（SBR）が30円、インフレンゴム（IR）が37円の値上げとなる。旭化成も6月1日出荷分から、BRとSBR（油展、非油展）で45円以上の値上げを発表した。いずれも輸送運賃の上昇に加え、人手不足を背景とした労務費や、製造設備の保全・定期修理などのコスト増が影響している。工場内では荷役などの構内物流に関する外注人件費を反映したケースもあり、メーカーは安定供給体制を維持するため価格改定に踏み切った。電力料金なども含めてインフレ傾向を示すなか、タイヤ周辺原料の価格は今後も右肩上がりとなる公算が大きい。